



第89号
 ■発行者■ 退職校長会 相馬支部 支部長 林 宗一郎
 ■印刷者■ (有)ライト印刷

「鹿狼山」



副支部長 星 和彦

屋久島で外国人山岳ツアーガイドをしている娘が、三月に帰ってきた。その際、山登りの相談をすると、「鹿狼山から始めたら。」と。そこで、四月十一日、九時十五分に家をスタート。帰宅は午後四時過ぎ。登り始めて直ぐの休み。途中も休み休み…。やっと山頂へ。懲りずに翌日も山へ。気持ちを取り戻すことがこの山の魅力。六月には、登り・下り五十回の結果が。十一月末の今は寒気の中、毎週三回行っている。

この間、多くの人と出会えた。「腰痛が酷く、この山登り治した。」という、心が通うM地区の人たち。この人たちは、十年以上のプロ。他にも八十二才の女性。週一回の登山で会ったKさん。この人も登山で腰痛を治した。お会いする度に貴重な助言をいただいている。これまでで、思い出になることは、十月の下山途中での大雨。ずぶぬれで帰宅。十一月の山頂に降雪の時。指が痺れ大変だった。これからの時期は、道路の凍結や降雪時の滑り止めについてKさんから対応策を教えられている。最大の楽しみが、元旦の初登り。大変な人混みらしいが。三

寄稿 「新地町教育行政のこれから?」

新地町教育委員会教育長 泉 田 晴 平



十分でランニング登山をされている男性も参加されるという。原生林の保護、十m毎の土砂流出防止ブロックの対策など、コース整備など町の対策にも感謝。山と人との出会いに元気をいただく日々です。

一息ついて教育行政について考えてみました。新地町の教育行政についてです。新地町でも、少子化・高齢化、人口減少が進み、児童生徒数の減少は、学校規模や学級編成、さらには地域の将来像にも大きな影響を及ぼしています。一方で、高齢化は、豊かな知識と経験を持つ方々が地域に多くいることでもあります。このような状況を地域の力として捉えて、これからの教育行政に生かすことが重要だと考えています。

少人数化が進む学校においては、一人ひとりの学びの質を高めることが一層重要になります。画一的な一

クの対策など、コース整備など町の対策にも感謝。山と人との出会いに元気をいただく日々です。

その際、多様な経験をお持ちの地域の方々に、キャリア教育や防災教育などに関わっていただくことも必要です。子どもたちが自分のふるさとを深く理解し、誇りを持てるようにするために、郷土教育を一層推進し、「新地で学んでよかつた」「いつか町に戻りたい」と思える心を育てていきたいと思えます。こうした学びは、そのまま地域の未来を創る力につながります。

さらに、デジタル化の進展は、新たな教育環境を拓く鍵となります。幸いにも、新地町の学校教育では、平

成二十三年から一人一台端末等のICT環境を整備し、子ども一人ひとりの理解度に応じた学習、協働的な学び、遠隔地との交流など、地理的条件や学校規模を超えた学びを進めております。その一方で、情報モラルの育成や健康面への配慮も欠かせません。「何のために、どのように使うのか」を常に意識し、子どもたちが主体的にデジタル社会を生き抜く力を育てていく必要があります。

教育行政の役割は、教育環境を総合的に整えることにあります。学校施設の整備やICT環境への対応といった物的整備に加え、教職員の働き方改革や研修の充実など、人的環境の改善にも力を注ぎながら、新地町の教育目標である「夢を育み 可能性を伸ばす」を実現させたいと思えます。



私の生き生き

杉内 律子



私が、長く続けているものが三つあります。

一番長く続けているのが、中学一年の時入ったバドミントンです。中学から大学、そして、社会人になっても青年団に混ぜてもらい全国まで行きました。夫ともバドで知り合い、子育ての時期は、さすがにできませんでしたが、下の子がスポ少のバドに入った頃から再開しました。今も月に二

三回シャトルを追いかけしています。

二番目に長いのが生け花です。三十年ほど前、担任していた子の保護者の方が、生け花教室を開いており、「お正月のお花を活けてみませんか。」とお誘いを受け、私のお花の道が始まりました。長く続けているお陰で、資格も取り、今は、加入している支部の庶務を引き受けて少し苦労しています。

そして、三番目がゴルフです。高平小に勤務している時、先輩の先生に、「ご主人と共通の趣味を持つと、一緒に仲良く出掛けられて良いわよ。」と教えて頂き、その先生もご主人とゴルフをしているとお聞きし、私の夫もゴルフで出かけてばかりなので、始めることにしました。二十年もたちますが、腕前は上がり、今の目標は百八を切ることです。

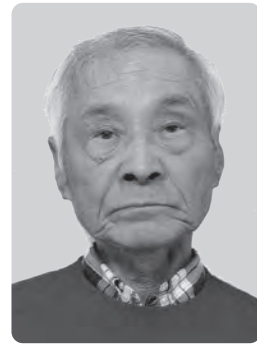
生き生きヘルシーの二巡目の原稿依頼が来た時、この三つ続けていることができるか、皆様どうぞお楽しみに。



～ 執筆2巡目連載中～

病と腕を組んで歩む

只野 恒雄



最近、冷蔵庫や食器戸棚の前で立ち止まり、「俺は今何をしに？」という場面が多くなってきました。

十年ほど前から糖尿病と診断を受け治療をしています。療法は三つ。一つは、食事。極力糖の血液への吸収を抑えるため、食べる順序を野菜サラダ(食物繊維)肉や魚(タンパク質)、最後にご飯やうどん(炭水化物)と。ご飯の量が半減しました。二つは、運動。主治医からウォーキングを週二回、八千歩と勧められました。でも六千歩がやっとです。公園内の平坦な所は勿論、階段や坂を下腹に力を入れ、胸を張り、大股速歩！筋力アップも目指して歩きます。とても桜や紅葉を楽

しむ余裕などありません。三つは、薬。血圧のも含めて朝夕三錠ずつ服用しています。

これらの療法の効果が出た確信はありませんが、このところヘモグロビンA1cの値が正常を示しています。一九四五年、韓国で生まれ、栄養失調のまま引き揚げた。五二才の時、十九時間間の舌癌摘出手術を受けた。こんな身体だが、これからも治療しながら、歯を食いしばって約四五度の八十路坂を登って行くつもりです。

原町区牛来にカフェを開いたのです。

村に残っている教え子から、由美ちゃんと直樹君が再婚して、そっちでカフェ開いたので、是非行ってあげてほしいとの連絡が入ったので、早速訪問したのが今年の三月。静かな中にも暖かい雰囲気を感じられるカフェでした。私は一回で気に入り、自分たちの仲間が定期的に行っている「会食とおしゃべり会」をここでやれるといいなあと思いついて提案し、一回やってみると皆も気に入ってくれ、その後が続いています。

テレビに出ちゃいました

高玉 幸江



私は、新採用教員として石川郡平田村立蓬田中学校に勤務しました。そこで出会った二人の生徒が、昨年、

この九月、「人生の楽園」という人気番組の収録が決まりましたというのを聞き、びっくり。しかも、私が二人の恩師として出て欲しいとの事。撮影日が例会の日と一緒だったので、三人の友も一緒に撮影に臨むこととなったのです。

十一月八日、テレビ放映私は自分の出ている所はスルーして、後からDVDで見た次第です。「人生の楽園」転じて「人生の宝物」……

寄稿

「福島県中学校長研究協議会
相双大会を終えて」

相双大会実行委員会委員長（相馬市立向陽中学校校長）
武 口 隆 行

福島県公立学校退職校長
会相馬支部の皆様には、
益々ご健勝のこととお喜び
申し上げます。

去る十月十日、南相馬市
において県内各地から二百
名を超える会員をお迎えし
て、第五十三回福島県中学
校長会研究協議会相双大会
を開催しました。振り返れ
ば「相馬大会」が最後に開催
されたので平成十七年で
二十年ぶりであり、「双葉
大会」が最後に開催された
のが平成九年で二十八年ぶ
りとなります。今回、形を
変えて相馬地方中学校長会
と双葉郡中学校長会が手と
手を取り合い、「相双大会」
として震災後初めての県大
会の開催を相双地区で実現
できるまでに至ったこと
は、大きな前進であると思
っています。同時に、相馬
地方中学校長会と双葉郡中
学校長会の「絆と結束力」を
改めて実感しました。

また、前回の県大会はコ
ロナ禍の影響でハイブリッ
ト形式の開催でしたが、今
回は県内のほとんどの校長
が参加して協議する参集型
の開催となりました。私個
人として、学校が抱える喫
緊の課題解決に向け、会員
の皆様が一堂に会し、顔を
突き合わせて協議すること
の素晴らしさ、そして同じ
校長として悩みや学校経営
のアイデア・実践を共有で
きることの頼もしさを感じ
ました。

午前には講演会として、
公益財団法人福島イノベー
ション・コースト構想推進
機構 理事長補佐 伊藤泰
夫様より、「『福島県発』の
イノベーションを創出する
人材』の輩出を目指して」を
演題としてご講演をいただ
きました。午後には大会
主題「豊かな人生を切り拓
き、持続可能な社会の創り
手を育てる中学校教育」の

もと、八分科会小主題に基
づく各支会の研究発表及び
熱心な研究協議が行われま
した。

社会状況が大きく変化
し、先の見えない時代に生
きる子どもたちに求められ
る力の育成に向け、校長と
しての在り方、使命を確認
する実り多い大会となりま
した。



クラブ活動

囲碁クラブ

大谷 一裕

今年度の年間活動は、次
の通りでした。

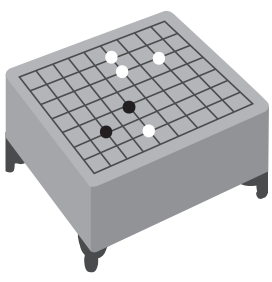
○親睦囲碁のつどい

今年度は、二回実施する
ことができました。

一回目は、八月七日(木)の
午後、鹿島区交流センター
で実施しました。二名の参
加でした。

二回目は、十二月六日(土)
の午前中、同じく鹿島区交
流センターで実施しまし
た。三名の参加でした。

和やかな雰囲気の中、対
局が行われ、次回を期待し
つつ終了することができま
した。そのため、年明けの
二月中に、三回目を行う予
定です。



○囲碁部員の減少

当クラブも会員が少なく
なってきました。今後維
持していかれるかどうかとて
も心配しています。部員の
皆様に、ご意見をお聞きし、
どうするか方向を決めてい
きたいと考えています。

ゴルフクラブ

菅野 耕平

令和七年は気温変化の厳
しい中でのプレーでした。
爽やかに緑の美しい時期に
軽やかにスタート、初夏か
ら気温変化の大きい、厳し
い中でのプレーとなり、体
調管理にこれほど注意を払
ったことは、経験ありませ
んでした。振り返ると酷暑
の中でのプレー。楽しむよ
りも辛ささえ感じながら
も？各人が自己管理に努
め、無理せずに切り抜ける
ことができました。

日々、健康で心豊かな生
活を楽しみ、維持しながら、
体力（筋力・脚力）の低下

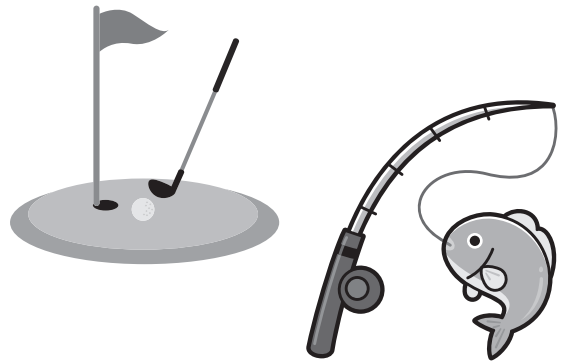
を防ぎ、身体を動かす運動習慣を身に付ける、バランスの良い食事を摂り、時には多くの友人と語らい、笑顔で充実した日常を送ることを目標として、会員全員、元気に楽しみ前進していきたいと思います。

「健康が目標ではあるが、健康で人生を楽しむことも目標でありたいものです。」
これまでの経験を冬場（十二月以降）も体力を生かしながら会員一同、心を一つにしてプレーしていきましよう。

一月から十一月までの

- 【二月】 遠藤 弘通 優勝者
- 【三月】 鈴木 孝彦
- 【四月】 遠藤 弘通
- 【五月】 松本 安彦
- 【六月】 高野 逸夫
- 【七月】 佐藤 宗信
- 【八月】 鈴木 孝彦
- 【九月】 但野 真一
- 【十月】 金谷 哲
- 【十一月】 大石 力彌
- 但野 真一

(※敬称略)



釣りクラブ

杉浦 伸吉

今年、土曜日に三回実施しました。

七月は、仙台港の「釣り公園」において、三人で実施しました。好天の土曜日で、家族連れやカップルなど多くの釣り人がいました。釣果はサビキ仕掛けで、サバ、イワシの大漁でした。サヨリも狙いましたが、一匹だけでした。

九月は、亘理町の荒浜漁港にある「鳥の海公園」(釣り公園)において三人で実施しました。晴れの日で、土曜日で、公園を散歩する人

や海辺の散策に訪れる人などもいて賑やかな釣り場でした。釣果は、潮が悪かったのか、ハゼや小さいチヌ、キスなどが僅かでした。

十一月は、檜原湖早稲沢にある民宿「えんどう」の釣り船でワカサギ釣りを一泊二日で実施しました。秋も深まり落ち葉に囲まれた山々の景色が印象的でした。天気も良く快適に電動リールを操りワカサギ釣りを楽しみました。今回は水温が高い影響で似たような小魚が多く釣れ、ワカサギは五〇匹程度しか釣れませんでした。民宿での源泉かけ流しの温泉と郷土料理の美味しさで癒され満足でした。

最近の相馬港の釣りは、アイナメ・キス・サヨリ・イカ・青物など様々釣れるのですが、今年には釣れる時期が短かったり、海水温度の影響があったり、釣り禁止区域が増えたりで、釣果が良くありませんでした。しかし、釣れなくても竿を担ぎ、魚と戦いながら自然と触れ合うことを楽しみ、喜びを味わっています。

パークゴルフクラブ

浜名 俊明

本年度も「親善パークゴルフ大会」を全員の協力で行うことができました。十月三十日(木)午後、東武P G場に於いて、十名が三十六ホールに挑み、その結果は、次の通りです。

- 【優勝】 浜名 俊明
- 【準優勝】 梅田 正彰
- 【第三位】 本田 進

(※敬称略)



秋晴れの良い天候に恵まれ、日頃の練習の成果を十分に発揮でき、楽しい大会

になりました。次年度も計画しますので、多くの方の参加を願っています。

また、毎週火・木曜日の午後、東武P G場で有志による練習会を行っています。パークゴルフを楽しむことを目的にやっていますので、ぜひ参加してみてください。お待ちしております。

本クラブも高齢化が進み、会員数が減少しています。多くの方に、野外での活動の楽しさを味わってほしいです。

パークゴルフは、北海道発祥の誰でも気軽に楽しめるスポーツで、クラブ一本とボール一個を使い、いかに少ない打数でカップに入れるかを競います。やってみると楽しいスポーツです。



※今年度の俳句クラブは、活動がありませんでした。(6)の作品は個人による御寄稿です。

東 西 南 北

新地地区

十一月十六日、相馬市との合同行事として紅葉狩りに参加いたしました。私もからは三名、相馬市からは十三名のご参加をいただき、鹿狼山の秋景色をとものに楽しみました。山の紅葉はちょうど見ごろを迎え、眼下には太平洋の雄大な眺めが広がり、心洗われるひとときでした。互いの近況を語り合いながら、楽しい交流の時間を過ごすことができました。

十一月二十五日、「旬彩工房まるふじ」にて恒例の現職校長先生方との懇談会を開催いたしました。当日は各校の現状や創意工夫を凝らした学校経営の取組みについて、現職の先生方から貴重なお話を伺うことができました。話題は尽きることなく、和やかな雰囲気の中でおいしい食事を囲みながら、時間の許す限り親しく交流を深めることができました。(吉田 雄二)

相馬地区

九月に予定の現職校長会との合同研修「重陽会」は新型コロナウイルス(ニンバス)の流行を踏まえ、残念ながら今年も中止しました。

十一月十六日には相馬市新地町合同の『紅葉狩り』を鹿狼の湯どんぐりにて開催しました。インフルエンザの流行や熊問題など、課題はたくさんありましたが、昨年度よりも多い十三名の皆様に参加いただきました。懇親会では、短時間でしたが、楽しく語り合い、非常に有意義な時間を過ごすことができました。(伊藤 浩樹)



南相馬市鹿島区

今年度は、次のとおり活動しました。
一、区総会
二、区総会
三、区総会

十一月十七日には浮舟文化会館において総会を行いました。二十一人の会員の中から十一人の参加でした。活動計画を協議したり、各自の近況報告をしたりしました。今年度は、役員改選があり、渡辺金作先生が会長になりました。

また、小高小学校の林典行校長先生においでいただき、学校の現状や課題、特色ある教育活動などについてお話いただきました。今回の総会で特に話題になったことは、会員の避難による転居や高齢化などから、今後の会の存続をどうするかということでした。できる限りは継続していきたいということを確認できました。

南相馬市原町区

秋の紅葉狩り研修会(パークゴルフ)を十一月十三日、参加者九名で開催しました。高倉胤尚氏が優勝し、三連覇、準優勝は鈴木進一氏でした。夕方からの懇親会には、佐藤利郎先生が加わり、近況報告を含め、賑やかな宴となりました。

十二月には、新事業として原町三小を六名で訪問し、国際バカロレア研究・学校経営の説明を受けました。三月には、役員会を開

南相馬市小高区

く予定です。(山邊 彰二)
今年度は五月十七日に浮舟文化会館において総会を行いました。二十一人の会員の中から十一人の参加でした。活動計画を協議したり、各自の近況報告をしたりしました。今年度は、役員改選があり、渡辺金作先生が会長になりました。

また、小高小学校の林典行校長先生においでいただき、学校の現状や課題、特色ある教育活動などについてお話いただきました。今回の総会で特に話題になったことは、会員の避難による転居や高齢化などから、今後の会の存続をどうするかということでした。できる限りは継続していきたいということを確認できました。

十一月現在、「黒松会だより」二十号の原稿を会員に依頼し、それらを飯塚先生にまとめていただき、年内に発行する予定です。(金谷 哲)

ご冥福をお祈り 申し上げます

故 荒 武治先生(93歳)
令和7年8月16日逝去

昭和29年福島大学卒。同年4月小高農業高校教諭を振り出しに、相馬農業高校で国語指導や生徒指導に精励した。昭和50年高校教育課指導主事(相双教育事務所駐在)。その後浪江高校教頭四年、内郷高校教頭二年を経て、平成元年矢吹高校長、相馬女子高校長を務め、平成4年に退職した。

故 安良 紀男先生(86歳)
令和7年12月24日逝去

法政大卒。昭和40年勿来市立立川部中学校を振り出しに錦中、三和中、飯樋中、上真野中、朝日中に勤務。昭和57年葛尾中教頭に昇任、県教育庁総務課管理主事を経て、昭和62年霊山町立泉原小学校長に昇任。相馬市教育委員会学校教育課主幹、同課長、中村二小校長を歴任し、平成13年中村一中学校長を最後に退職。退職後は、平成15年から相馬市教育委員会教育委員を務め、平成17年に教育委員長、平成22年からは約一年半余りにわたり相馬市教育長を務めた。

文芸

俳句

「浦尻縄文の丘」

江井 芳朗

縄文の貝塚遺構深む秋

青胡桃たわわ声上ぐ縄文人

縄文の道や眼下に秋怒涛

蝨斯縄文の丘目覚めゆく

親しげに毬栗縄文遺跡かな

金谷 哲

あえかなる時間空間

赤とんぼ

陳列は棚の真中や初さんま

竜淵に潜む処理水大洋へ

秋惜しむにはあまりにも

秋短か

浦尻貝塚吟行句会にて

太古より命繋ぎし栗たわわ

川柳

平間 勝成

運がない何もしないで

運を待つ

駄目もとで値切った家電

故障なし

キーの手で触診してよ

お医者さん

半夏生酷暑で流れ半化粧

亡き妻へ新聞投書胸を打つ

前山 利栄

今日もまた乗客なしの

バスが行く

妻が留守背なに湿布が

届かない

目が覚めて手足が動く

この安堵

安青錦に負けてなるかと

四股を踏む

爛点いたよっしゃ

「鬼平犯科帳」

事務局より

【県大会会津大会報告】

福島県公立学校退職校長
会津大会が六月十日(火)
に南会津町の御蔵入交流館
で開催され、県内各支部か
ら約百七十名の参加者があ
りました。相馬支部からは、
支部長・会計・庶務の三名
で参加しました。

開会式後の「米焼酎ねっ
か只見で生き抜く」という
演題で、合同会社ねっか代
表の脇坂齊弘氏の講演が行
われました。郡山市出身で、
大学卒業後は建築の道に進
みましたが、結婚を機に南
会津に移住し、酒蔵で日本
酒造りに携わりました。そ
こで過疎地の抱える切実な
課題（地域産業の衰退、若
者の流出、進む少子高齢化）
などに直面しました。その
解決に向けた一歩として、
地元素材を生かした新し
い事業を興し、働く場を提
供できるように活動を進め
ているお話から、脇坂氏の
地域への温かい思いや、地
域の宝である子どもたちへ
の熱い思いを感じ取ること
ができました。

その後、三支部からの体
験発表が行われました。伊
達支部からは「写真人生」か
きくけこ」という題で、
美しい写真とともに撮影時
の感動が発表されました。
田村支部からは「支部の現
状と活性化に向けた課題」
という題で、魅力ある会活
動への積極的な取り組みが
発表されました。双葉支部
からは「震災と事故後十四
年、双葉の今」という題で、
「双葉の灯は消さない」と
いう強い思いをもとに記録
集を発行していることや、
クラブ活動の再開、現職校
長会との懇親会の実施等の
取り組みが発表されました。
どの発表も組織としての活
性化を始め、会員一人一人の
やりがいや生きがいについ
て示唆に富んだものでした。
最後に大会宣言を全員で
読み上げ、その後の閉会式
で大会が終わりました。

「グローカル（地域性を
考慮しながら地球規模の視
点で考え、行動すること）」
の視点を基本に、充実した
会津大会となりました。
(庶務 午来 勝頭)

お知らせ

今回の広報そうま第89
号は、前回の第88号より
ページ数が二ページ少な
くなりました。これは退
職校長会相馬支部の会員
数の減少、並びに諸物価
などが理由です。
どうか会員の皆様のご
理解をお願い致します。

編集後記

昨年の夏は本当に暑い夏
でした。夏が過ぎると今度
は、あまり秋を感じること
なく、あつという間に冬が
やってきました。これから
は、季節を感じる四季から
二季に変化するような話を
聞いたことがあります。

そして、日本中を驚かせ
た熊出没騒動です。昨年の
漢字にも選ばれるという始
末です。何かが昔とは違
う気がします。皆さんは元
気で毎日を過ごしましょう。

編集委員

- 森 仁市(新地)
- ◎反畑 増生(相馬)
- 星 国央(鹿島)
- 杉内 律子(原町)
- 藤巻 国孝(小高)